

はなごころ

制作 箕面森林ふれあい推進センター
作・絵 矢放七海



もくざいのヒミツ

制作 箕面森林ふれあい推進センター

作・絵 矢放七海



Yahanashi



ふゆやす しょうがくせい いえ き
冬休みのこと、小学生のハルヒはおばさんの家に遊びに来ていました。

「ねえ、おばさん。なんだかおばさんの家いえってうちの家いえとふんいきがちがうね。」

「そう？ああ木材もくざいでできた物ものが多いからかもしれないわね。」



おかしな日

読書



「えっとそれは木^きでできたものってことだよね」

「そう、苗木^{なえぎ}を育てて切^きって使^{つか}うの。

木材^{もくざい}はずっと大昔^{おおむかし}から建物^{たてもの}や家具^{かぐ}とか道具^{どうぐ}色んなもの^{いろ}に使^{つか}われているのよ」



「なんでそんなに使^{つか}われているの？」

おばさんがにやりとして言^いいました。

「それはね。

木^きにはみんなが使^{つか}いたいと思^{おも}うすごいヒミツがあるからよ。」



「ヒミツ？どんな？」

「うーんどうお話しすればわかりやすいかしらね。」 おばさんは少し考えると言いました。

「そうだ、あなたが今からばいきんよりももっと小さくなったと想像してみてください。」



「そうね、

ちい つかえ うえ もくざい さぐ ぼうけん
小さくなって机の上で木材のヒミツを探る、そんな冒険ごっこをしてみるのはいかがでしょうか。

ちい おも
小さくなればいろいろなことが見えるし、きっとそのヒミツがわかると思うわ」



「えっ、おもしろそう、やってみる！」

ハルヒはめと目を閉じてみました



ハルヒはどんどんちい小さくなってお降りていきます。

つくえ うえ机の上のちいさなちいさなだいぼうけん はじ大冒険の始まりです。



つくえ
机がだんだんと近づいてきました。

つくえ
「ええー！ここ机じゃないみたい！

ちい あな あ なん
小さな穴がたくさん空いてるよ、何で?!」

い
おばさんが言いました。

き い
「それはね、木が生きていたあかしのよ。」

い
「えっどう言うこと？」



「木は地面に生えているでしょ。」

穴は木が根っこから水や栄養を吸いあげて葉まで届けるための

大切な通り道だったのよ。」

「じゃあ、この机もどこかの森に生えてたのかなあ」

「そうね。」

あっハルヒ、そろそろ下に着くわよ」





Yahanashi

つくえ お た
ハルヒは机に降り立ちました。

ポヨン！

「えっなんかやわらかい！」

もくざい あな
「そうね、木材は穴がたわむことで、

はたら
クッションみたいな働きをするの。

いえ がっこう ゆか もくざい つか おお
だから家や学校の床とか木材が使われることが多いのよ。」

ひろ つくえ うえ ある
ハルヒは広い机の上をはずむように歩きだしました。



しばらく机^{つくえ}を歩^{ある}いていくと目^めのまえを

大^{おお}きな大^{おお}きなスプーンが立^たちふさがりました。

「わあ、銀^{ぎんいろ}色の橋^{はし}みたい！」





ハルヒはスプーンの上^{うえ}によじ登^{のぼ}ってみました。

「あれ？木の机^{き つくえ}をさわった時^{とき}より手足^{てあし}が冷たい^{つめ}気がする^き！

どうして？」

ハルヒはびっくりしました。

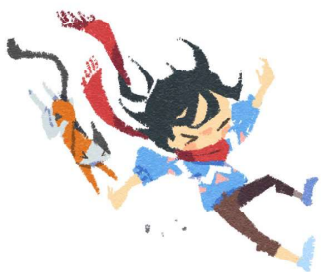
「木^きにはね、鉄^{てつ}に比べてさわった時^{とき}の冷たさ^{つめ}を和^{やわ}らげてくれる

ヒミツがあるのよ。」

寒^{さむ}くなってきたハルヒはスプーンの上^{うえ}を^だけ出しました。







ハルヒは先^{さき}まで来^くると

スプーンをすべり^{おお}大きくジャンプして高^{たか}くとびました。



そのまま木^きの穴^{あな}の中^{なか}へ。

ヒューっポンっ^{はい}と入ります。





あな すべ 穴を滑りおりると、なか 中はまるでめいる 迷路のよう。

みず とお 「わあ、ここに水が通ってたのかなあ」

あな さあ、穴をつたってすす 進んでいきましょう。



すこ すす ばしよ み
少し進んで、ハルヒはすわるのにちょうどいい場所を見つけました。

「おばさん、そういえばさっきから良い香りがするんだけど。」

もくざい かお ひと こち
「木材の香りね、人をリラックスさせたり心地よくねむれるようにしてくれる

ヒミツがあるのよ。」

かお すこ
ハルヒは香りにつつまれて少しねむりにつきました。



Yahashi

げんき つくえ ひょうめん で
元気になったハルヒは机の表面にまた出てきました。

「あっ、おばさんの^て手^みが見える！おばさーん、ヒミツたくさんわかったよー！」

ハルヒは^{はし}走りだしました。

そのときです。



ばい菌きんが上うえからやってきました。

「どうしよう！あともうちょっとなのに・・・！」

「お落ちついてハルヒ、ばい菌きんに木材もくざいの香かおりをあてるのよ」



ハルヒはジャンプして^{かお}香りを^{きん}ばい菌にあてました。

ばいきんはとても^{いや}嫌がって^に逃げようとしています。

「やったあ！」「ハルヒえらい！^{きん}ばい菌は^{もくざい}木材の^{かお}香りを^{いや}嫌がるから、

^{きん}ばい菌を^{ふせ}防いでくれるヒミツもあるのよ。」



あたふたしているばいきんを踏み^ふ台^{だい}にして
ハルヒは高^{たか}く跳^とび上^あがりました。



「ただいまー！」



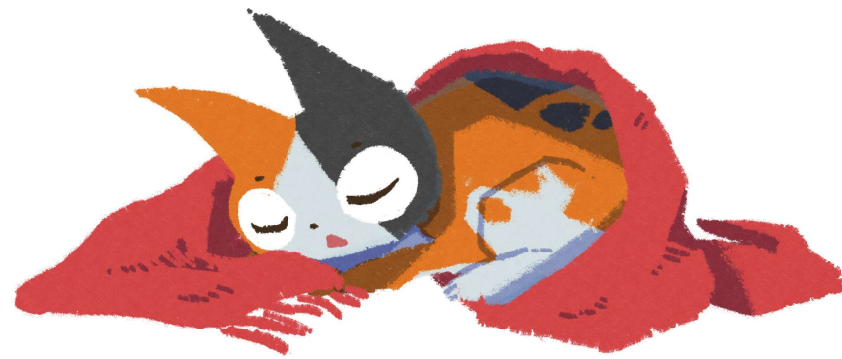
Yahanashi

ぼうけん たの もくざい
「冒険ごっこ楽しかったー！木材のヒミツよくわかったよ。」

つくえ ね
ハルヒは机に寝そべってみました。

ぼうけん とき かお
ほんのり冒険の時のあの香りがしました。





「もくざいのヒミツ」

制作 林野庁近畿中国森林管理局
箕面森林ふれあい推進センター
TEL：050-3160-6745
FAX：06-6881-2055
メールアドレス：kc_fureai@maff.go.jp

作／絵 矢放 七海



この絵本は森林環境教育用に制作した紙芝居を絵本形式にしたものです。

木材という素材の不思議を楽しく学んでいただければ幸いです。

紙芝居『もくざいのヒミツ』デジタル版はセンターのホームページでダウンロードできます。

御自身や家庭内での利用を除き、学校教材や森林環境教育教材等として利用される場合は、

御手数をおかけしますが、あらかじめ箕面森林ふれあい推進センターのアドレスまで

利用の目的や内容について連絡をお願いします。

2022年1月28日 初版発行

